

消費志向自主宣言 2017年実績報告

2018年7月4日

石坂産業株式会社

代表取締役 石坂典子

1 経営トップコミットメント

消費者志向自主宣言のコミットメントに基づき、2017年度は講演活動で48団体6491名に対し、自然を大切し地球環境負荷の低減に努めるエシカル消費について情報発信し、レジリエント社会実現に向けた価値共創に努めました。

多くのマスメディアの取材を受け「自然と人と技術が共生」する企業づくりの取組みについて紹介しました。

2 コーポレートガバナンスの確保

地域から愛される「永続企業」を目指し、美しい雑木林とマッチした景観づくりで壁面緑化の設置、自然の地中熱を利用した空調設備の導入、大型鉛蓄電池の設備投資による仮想発電事業（VPPプロジェクト）への参入など、持続可能な社会に向け環境・社会・経済に投資を継続しています。

3 消費者対応部門等と他部門との有機的な連動

全社一丸となり石坂流の「室礼」日本伝統行事の七草、七夕祭り、餅つき等旬のイベントを開催し、四季の空間を演出し、お客様に楽しんでもらいました。

4 社員の積極的活動

社員一人ひとりが「自分の仕事に誇り」について話す、機会の場を設けています。五感経営＝見せる経営の一環として、見学者通路にウェルカムメッセージを貼りだす等3M（見せる・魅せる・満せる）活動を行いました。

5 消費者に対する具体的な行動

来場された329団体約7200名の方に「体験型」環境教育を行い、持続可能な社会目標SDGs4「質の高い教育」を支援しました。埼玉県・川越市・ふじみ野市／三芳町・長野県が主催する環境イベントに出展し、ワークショップを通し4R（Reduce Reuse Recycle Respect）を周知しました。

6 消費者への情報提供の充実・双方向の情報交換

倶楽部ヤマユリの広報誌や事業紹介のダイジェストを発行しました。「自然と美しく生きる」コープロートスローガンに因んだイベントを開催し、多くの人々にご来社いただき愉

しんでもらいました。

7 消費者・社会の要望を踏まえた商品・サービスの改善開発

日本農業遺産に登録された江戸時代から続く落葉堆肥農法に取組み、石坂ファームの農業法人を設立しました。「身土不二」の土づくりにこだわり、有機栽培の「三富野菜」をブランド化しました。国際規格の G-GAP、ASIA-GAP も取得し、安心安全な有機野菜をお届けしています。

以上